

鶏フンはおいしいトウモロコシを育て、犬フンは人を不快にする

今までは廃棄物として処理していた鶏糞(鶏フン)を肥料に使ったところおいしいトウモロコシが採れるようになった。1日に1トンの鶏フンが出、トウモロコシの栽培面積は1ヘクタール(約1町歩)、採れるトウモロコシは3万5千本。1本あたりの売価を180円とすると、売上高は630万円との単純計算となる。ふつうは1本から3本のトウモロコシが採れるから、実際の売上高はさらに高い可能性がある。廃棄物の処理費用代が収入に代わり、またおいしいトウモロコシを通して多くの人に喜んでもらえる、大きな変化が生まれた。

一方、嫌われているのは犬のフンである。多くの人が犬の散歩をさせているが、問題のフンはその中のごく一部の人の不心得によるものである。ただし、フンの特徴がそれぞれに異なっているため、一匹の犬からのものではないことは確かである。

加古川市広報7月号によると、昨年、加古川市の一部の地域で「イエローチョーク作戦」が実施され、効果ありとの感触を得たようである。それに遅れること数カ月、加古川市の遊歩道・松風こみちにおいても本年4月にこの作戦は実施されたようである(以下の写真を参照)。ただしこちらは、チョークの色は白色だった。また、写真の日付の後にはこの作戦は実施されていない。

7月の広報で特集されるくらいであるから、今後の活動とその成果が期待される。

## 日本経済新聞 2019.7.5夕

# 養鶏場の「イエローチョーク」?

相模原

相模原市南区の養鶏場から出るふんを肥料に使ったトウモロコシが人気だ。粒が大きく甘いのが特徴で、朝に収穫すると夕方に完売することもしばしばという。養鶏が盛んな同区の新たな名物になっている。

トウモロコシを作っているのは、養鶏場を経営する「小川フェニックス」だ。約3万羽の鶏を飼育しており、ふんは1日1トにもなる。以前は、冬の間は農地に混ぜて土壌を肥やし、3月に種をまき、収穫は6月ごろから始まる。今では栽培面積が1畝になり、約3万5千本の収穫が見込まれるほどになった。

同社の久木幸城さん(43)

約3万5千本の収穫が見込まれるほどになった。

## ふん肥料に、新名物

鶏の餌には乳酸菌やゴマ、ヨモギなどを加えており久木田さんは「これを食べた鶏が出すふんも土にいいはずで、おいしいトウモロコシの秘訣かもしれない」と話している。トウモロコシは養鶏場近くの同社の直売所「スウィートエッグス」で3本540円、JA相模原市の農産物直売所「ベジタバーナ」で2本400円で7月中旬ごろまで販売している。



# 犬のふん害対策は 「イエローチョーク作戦」が 効果的です。



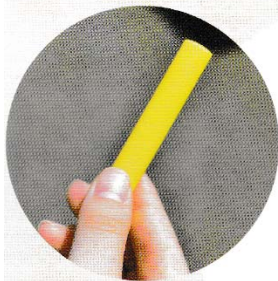
昨年11月の市民意識調査で、皆さんが「ポイ捨てやペットのふん害防止」の重要度を高いとするものの、現状の満足度は低いと感じていることが分かりました。そこで、市はふんの放置を減らすため、市保健衛生協議会\*と連携して「イエローチョーク作戦」を推進しています。町内会や自治会で取り組んでみましょう。

\*市内の環境美化やごみ減量推進に精力的に活動している住民主体の団体。啓発事業やごみ分別指導などに取り組んでいます。

## イエローチョーク作戦とは

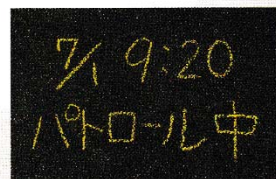
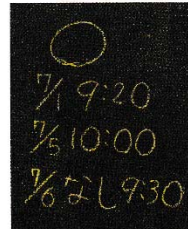
京都府宇治市で始まった取り組みです。放置されたふんの周りを黄色のチョークで囲むことで、迷惑していることを飼い主に知らせ、飼い主のマナーやモラルの向上を啓発します。すでに実施している自治体では、ふんの放置が激減したという成果が出ています。

黄色のチョークを  
各自で用意  
しましょう



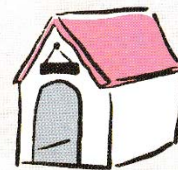
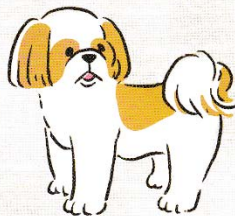
## イエローチョーク作戦の方法

- ①ふんを丸で囲む ②発見した日時を書く
- ③ふんを片付けず、日時を変えて現場を確認する  
ふんが残っている場合▶「確認日時」を書き足す  
ふんが残っていない場合▶「なし」と書く
- ④ふんがないときも予防のために  
「パトロール中」と書くより効果的です  
※実施前に環境政策課に届け出てください。



## 試験的に実施しました

昨年12月から2カ月間、町内会の協力を得て、尾上町安田でイエローチョーク作戦を試験的に実施しました。終了後のアンケートでは、「継続することで効果が期待できる」「今後も取り組みたい」といった前向きな意見が多く寄せられました。



▶ 問い合わせ/環境政策課 ☎427・9199